

蔡鳳善印



京・西陣 老舗御袋司 創業文化元年

菱屋善兵衛

木野織物株式会社

木野家は、今から約二百年前、尾張国から入洛した木野善八が初代といわれ、現社長木野善之で八代目を数えます。

二代目善兵衛が当時丸屋と並び、西陣の機業を二分していた菱屋に入り織物業を習得、「菱屋善兵衛」と名乗り現在の地に独立したのが文化元年（1804年）で、この年を創業としています。

現在、所蔵する古代裂地を復刻した袋帯を中心に、西陣お召しなど時代に合った商品を提供しています。

創業から大正年間の当社建物



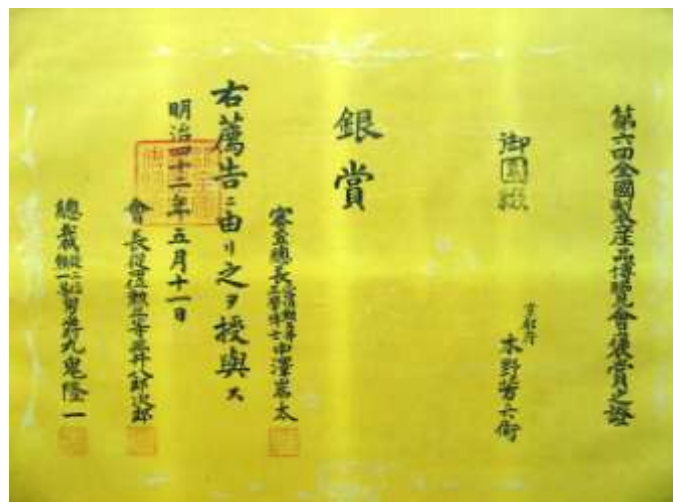
職人の手織の様子（当時）



- | | |
|-------|----------------|
| 文化元年 | 創業 |
| 昭和29年 | 設立 |
| 昭和44年 | 京都府知事認定 |
| | 「京の老舗」表彰 |
| 平成6年 | 西陣織大会 京都府知事賞受賞 |
| 平成10年 | 西陣きものフェスティバル |
| | 通商産業大臣賞受賞 |
| 平成21年 | 西陣織大会 京都市長賞受賞 |
| 平成23年 | 西陣織大会 京都市長賞受賞 |

菱屋善兵衛所蔵品

文化元年（1804年）創業以来、菱屋善兵衛の伝統と技を今に受け継いでいます



菱屋善兵衛

菱屋善兵衛所蔵品



菱屋

所蔵

「蔵」

創業200年の記念となる帯の製作をと考え、約10年前、弊社の蔵を整理していたところ、明治・大正時代に製造していた生地や図案、小物などが多く見つかりました。

当時の生地というのは、糸のこみ具合、ジャガードの細かさなど、たいへん緻密なもので、現在の技術では復刻することが困難なものも多数ありました。

その生地の風合い、柔らかな手触りや軽さを今に蘇らせるために研究を重ね、ごく細かい良質な原糸を横糸に使用して、一般の帯の倍の密度に織り上げました。

職人により図案、素材、配色すべてに於いて吟味を重ね3年の歳月をかけ、出来上がった帯です。

今の時代には新しさを感じさせ、訪問着から色無地、また紬系統にまで幅広く合わせられる用途の広い末永くご愛用いただける帯に仕上がりました。

受け継いできた伝統と技を身につける事で実感していただけると幸いです

「蔵」の地組織は、古来からの織物組織「錦織」です。
縦と横の込みを一般の帯の二倍細かく織り込むことにより、
模様がきめ細かく表現されています。



菱屋善兵衛

「俄」

菱屋善兵衛が所蔵する古図案集を元におしゃれ着向きに製作した
「俄」シリーズは、経糸、緯糸共に紬糸を使用し、引き箔には焼き箔を用いて、

柔らかみのある金銀の彩りを表現しました。

柄ゆきはおおらかで、遊び心を感じさせる着こなしを

楽しんで頂ける帯に仕上がりました。



菱屋善兵衛 「凜」 ～アールヌーヴォーの香り

アール・ヌーヴォーは、19世紀末～20世紀初頭の約30年にかけて、ヨーロッパやアメリカでおこった革新的な芸術運動です。そのコンセプトは、「産業革命以降、粗悪になった実用品に芸術性を取り戻す」というものでした。この美術様式の登場により、絵画、インテリアなど多くの分野で芸術家が活躍し、草花や昆虫など「自然」の動植物をモチーフに幻想的な色合いで彩るといった美術品が数多く作り出されました。

その文様に描かれる花の種類は、あざみ、たんぽぽ、すずらん、水仙、クロッカス、睡蓮といった野の花のような素朴なものが多く、当時流行していたジャポニズムの影響を強く受け、ヨーロッパの感覚では抜きがたい立体感の表現を捨てて、浮世絵に見られるような平面的かつ装飾的な空間構成が取り入れられています。

そんなアール・ヌーヴォーのデザインを、菱屋善兵衛の技で現代に甦らせたのが袋帯「凜」です。

弊社が研究を重ね、明治・大正時代の生地 of 復刻に成功した「蔵」シリーズと同様、縦糸と横糸の込みを一般の帯の2倍細かく織り込むことにより、文様がきめ細かく表現されています。



菱屋善兵衛謹製袋帯

「時代錦」

明治6年、フランスのリヨンよりジャガードが輸入されたことは、当時、維新の混乱によって衰退していた西陣織に明るい光を投げ与えました。さらに織物図案界では京都画壇の名だたる面々によって構成された図案誌が発行されました。

創業文化元年（1804）の菱屋善兵衛には、明治中期からの貴重な図案誌が今も、大切に保存されています。これらの図案の感性・個性を後生に残す為、織物「時代錦」として甦らせました。素材に、昔ながらの糸を再現し、織りにも、昔ながらの技法と今日の技術を駆使して初々しく織り成しました。

国を挙げての気運高まる時代の傑作をご賞翫ください。



菱屋善兵衛

菱屋善兵衛謹製袋帯

「咲々 (わらわら)」

「咲々 (わらわら)」とは、数え切れないほど多くの喜びや幸福を吉祥文様として織り咲かせたもの。

その昔、「笑う」は「咲ふ」と表されていました。



菱屋善兵衛謹製 両面袋帯

「水月」



平成21年 西陣織大会
京都市長賞受賞